

第 125 回古民家歴史部会・歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ・第 20 回」

平成 30 年 3 月 14 日(水)

「小田原宿」

＊集合：国府津駅（改札口） 9 時 50 分厳守同時出発

＊解散：小田原駅

①二宮尊徳表彰の地

小田原藩主大久保忠真^{ただまね}は、大阪城代・京都所司代の重責を果たして文政元年（一八一八）幕府の老中に任ぜられ江戸に向かう途中領民の代表を集めて親孝行など十三名を表彰したときに忠真三十八、歳金治郎三十二歳であった、その場所がこのあたりの酒匂川堤防下河原と伝えられる。

この表彰によって金治郎（後に・尊徳）は自他を振り替え忠真の厚い信頼を得て桜町や小田原をはじめ全国六百余の農村の復興や藩などの財政再建に貢献した。

②新田義貞首塚

新田義貞は、北陸地方を転戦中、国島で討ち死にし、利尊氏によってその首級をさらされていました。義貞家臣は、主君 義貞のさらし首を奪い返し、領国である上野国に首を届けるために東海道を下った。

しかし酒川のほとり、ここ網一色村に達したとき、にかり、体を動かすことができなくなってしまったと云います。

そこでやむをえず、義貞の首をこの地に埋葬して、自分自身もこの地で亡くなったと伝えられています

③常願寺

交差点名は「常^{とこ}願寺」であるが、寺名は「常^{とこ}願寺」で日蓮宗の寺院です。

境内は山門をくぐると、杉並木と大銀杏をはじめ秋には萩の花が境内を美しくうめつくします。

④山王神社

境内に星影が映る井戸があることから、星月夜ノ社とも、呼ばれています。

以前はもっと海沿いにあったが、暴波で崩壊し、慶長 18 年(1618)に現在地に移されたと云われています。

⑤北条稻荷

小田原城内で死んだ老狐の霊が家臣に乗り移り、身辺に不幸を起こしたからだと考えた氏康子・北条 4 代・北

条氏政が城内に老狐の霊を祀って供をしたのが北条稻荷の起こりと伝えられています。（諸説あり）

⑧本陣跡・脇本陣跡

清水本陣跡・脇本陣跡は現在標識のみ。

⑨ういろう本館

「ういろう」は「外郎家」の製造販売する別名「透頂香(とうちんこう)」のこと。この透頂香は通販や薬局で販売していないにも関わらず昔も今変わらぬ人気。

ういろうは、600 年以上前から変らぬ製法で作られている、現地でしか買えない大衆薬です。眠りにつかない時、胸焼けが苦しい時、頭が痛い時...どんな時でもういろうを飲めば治ると言われ、日本各地の家庭に常備されている不思議な薬です。

ういろう本館は「ういろう」の製法や歴史を展示した建物です。

⑩小田原城址公園

小田原城が初めて築かれたのは、15 世紀中ごろのことと考えられています。 戦国大名小田原北条氏の居城となってから、関東支配の中心拠点として次第に拡張整備され、豊臣秀吉の来攻に備えて城下を囲む総構を完成させると城の規模は最大に達し、日本最大の中世城郭に発展しました。

江戸時代を迎えると小田原城は徳川家康の支配するところとなり。その後箱根を控えた関東地方防御の要衝として、また幕藩体制を支える譜代大名の居城として、幕末まで重要な役割を担ってきました。しかし、小田原城は明治 3 年に廃城となり、ほとんどの建物は解体され、残っていた石垣も大正 12 年(1923)の関東大震災によりことごとく崩れ落ちてしまいました。現在の小田原城跡は、本丸・二の丸の大部分と総構の一部が、国の史跡に指定されています。また、本丸を中心に「城址公園」として整備され、昭和 35 年(1960)に天守閣が復興、次いで昭和 46 年(1971)には常盤木門、平成 9 年(1997)には銅門、平成 21 年（2009）には馬出門が復元されました。

一口メモ

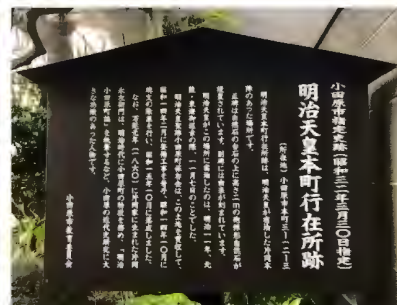
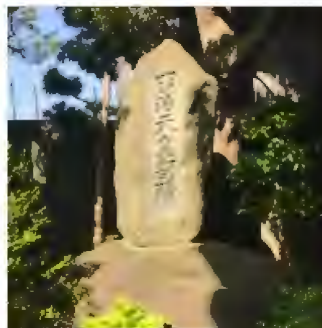
じょうけん じ 常願寺 → じょうけん じ いりぐち 常願寺入口(小田原市)
 しゅぜん じ 修善寺 → しゅぜん じ 修善寺町(伊豆市)
 ちょうけい じ 長慶寺 → けいちょう 橋(栄区)
 だてしな 湖 蓼科湖 → だてしな 町 立科町(長野県)
 ゆふいん だけ 由布院岳 → ゆふいん ちょう 湯布院町(大分県)

東海道歴史探訪20

小田原宿

2018.3.14





小田原一里塚

明治天皇聖蹟

明治十八年築のお蔵を利用した小さな博物館を平成十七年夏に開設致しました。初祖 陳延祐より六百余年、二十四代にわたり代々伝統を守り続ける外郎家は、五代目 定治が当地に移住してから五百年が経ちました。独特の店構えの理由、「ういろ」の名の由来、お菓子と薬の起源、歌舞伎十八番「外郎売」との関係などを、小田原で最も古い商家ゆかりの品々をご覧頂きながらご紹介しております。



ういろ博物館



ういろの歴史

中国の元朝に仕えていた陳延祐(諱名 宗敬)という人が日本に帰化して、中国での官職名、礼部員外郎(れいぶいんがいろ)の外郎をとって、官職名と間違えられないように読み方を変えて「ういろ」と名乗りました。以後今日まで外郎家は650年、二十五代に亘り歴史を重ねています。

「ういろう」の薬とお菓子

